

厚生労働科学研究費補助金【エイズ対策政策研究事業】  
HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究  
(分担)研究報告書

## HIV 郵送検査の実態調査と検査精度調査 (2021)

研究分担者 今村 顕史 (都立駒込病院)  
研究協力者 須藤 弘二 (株式会社ハナ・メディテック)  
佐野 貴子 (神奈川県衛生研究所)  
近藤真規子 (神奈川県衛生研究所)  
今井 光信 (田園調布学園大学)  
加藤 真吾 (株式会社ハナ・メディテック)

### 研究要旨

現在インターネット上では、検査希望者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができる“HIV 郵送検査”を取り扱う Web サイトが存在し、その検査数は増加しつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するため、郵送検査会社に対してアンケート調査を行い、検体、検査法、検査結果の通知法等に関する実態調査を行った。また検査精度の調査のため、パネル血漿を用いて作成した再構成全血検体を用いて検査精度調査を行った。

アンケートを依頼した 13 社の内、10 社から回答が得られた。郵送検査会社全体の HIV 年間検査数は 104928 件であり、昨年と比較して 0.8%減少していた。団体検査の推定受検者率は 42%であった。HIV スクリーニング検査陽性数は 112 例であり、昨年と比較して 37%増加していたが、判定保留数は 67 例であり、陽性数と判定保留数を併せた 179 例は昨年の 181 例と比較してほぼ横ばいであった。HIV 検査の受検費用は平均 4083 円、検査日数は平均 3 日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものをを用いており、PA 法、イムノクロマト法、CLEIA 法、EIA 法等、PMDA で認可された臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて専用 web サイト E-mail での通知が選択できる会社が多く、検査結果が陽性だった場合、すべての検査会社で病院での検査をすすめていた。

検査精度調査を行った 6 社中 5 社は、陽性、陰性検体ともすべて結果が一致していたが、1 社は陽性と陰性それぞれ 1 例が一致していなかった。

今後定期的な外部精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、「HIV 郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

### A.研究目的

現在 HIV 検査は、土曜・日曜・夜間検査、即日検査や NAT 検査等の検査希望者のニーズに合わせた検査が、保健所・病院・民間クリニック等の検査・医療機関で行われている。それらに加えて、インターネット上では、検査希望

者が検査機関に行くことなしに HIV 検査を受検することができる“HIV 郵送検査”を取り扱う Web サイトが存在し、その検査数は増加しつつある。この HIV 郵送検査について現状を把握するため、郵送検査会社に対してアンケート調査を行うことにより、検体、検査法、検査結果

の通知法等に関する実態調査を行った。また昨年に引き続き、検査精度の調査のため、調査を了承した郵送検査会社に対し、パネル血漿を用いて作成した再構成全血検体を用いて実際に検査を依頼することによって検査精度調査を行った。

## B.研究方法

### 1. アンケート調査

検索サイト「Google」を用いて、「エイズ+郵送」、「HIV+郵送」、「郵送検査」、「郵送検診」、「郵送健診」で検索を行い、HIV 郵送検査を取り扱う Web サイトを上位 100 位まで検索した。検索した Web サイトで販売されているキット、または Web サイト自体を運営している会社を調べた結果、自社で検査結果の報告を取り扱う HIV 郵送検査会社が現在 13 社あることがわかった。これら 13 社の郵送検査会社に対し、2022 年 2 月 4 日から 2 月 21 日にかけて手紙、FAX、メールにてアンケート調査の依頼を行った。

アンケート調査は以下の 18 項目について行った（資料 1）。

- ① 年間スクリーニング検査数、検査陽性数、判定保留数（団体での定期健診検査受付の有無、返却方法、医療機関への紹介と受診確認件数）
- ② 梅毒スクリーニング検査数と検査陽性数
- ③ 新型コロナウイルス郵送検査の有無と検査数
- ④ 新型コロナウイルス流行による HIV 郵送検査業務への影響
- ⑤ 外部精度調査への参加の有無
- ⑥ HIV 郵送検査に関する今後の課題と展望
- ⑦ HIV 郵送検査の開始年月
- ⑧ 検査申込方法
- ⑨ 検査費用
- ⑩ 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具
- ⑪ 受検者から会社への検体輸送方法

- ⑫ スクリーニング検査の方法と使用キット
- ⑬ スクリーニング検査の実施施設
- ⑭ 検査結果の通知方法と通知までの日数
- ⑮ スクリーニング検査陽性時の対応
- ⑯ 2017 年以前の年間検査数と陽性数
- ⑰ 他に取り扱いしている STD 検査の種類
- ⑱ 郵送検査を行うための届出、申請等

### 2. 検査精度調査

前年のアンケート調査で参加または返答無しであった施設に呼びかけ、参加の確認が取れた 6 施設を対象とした。それぞれ陽性 3 検体、陰性 2 検体、合計 5 検体について検査を依頼して検査精度調査を行った。陽性検体は、パネル血漿 55%と健常人血球成分 45%を混合することにより再構成した血液で作成し、陰性検体は健常人血液を用いた。パネル血漿は SeroDetect HIV-Ab Range Validation Panel KZMC024 (ZeptoMetrix 社) の#7 から#9 の 3 種類を用いた。検体は通常行われている郵送検査と同様に、各施設で用いている方法で保存して郵送し、測定を行った。

また、郵送検査会社に送付した 5 検体を用いてろ紙検体を作成し、ジェネディア HIV-1/2 ミックス PA（富士レビオ）で抗体価を測定した。ろ紙作成および抽出は、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 検査相談機会の拡大と質的充実に関する研究 総合研究報告書（平成 18～20 年度）」（研究代表者 今井光信）分担研究報告書「ろ紙を用いたドライブポット法による HIV 検査法の検討」（宮崎裕美他）の方法に準じて行った。

## C.研究結果

### 1. アンケート調査

依頼した 13 社中、10 社から回答が得られた。

- ① 年間スクリーニング検査数と検査陽性数(図 1)

2021 年の HIV 郵送検査全体のスクリーニング検査数は 104928 件であった。10 社の内、団

体検査の受け付けがあったのは 5 社であった。郵送検査の内、団体受付の推定検査率は 42%、推定団体検査数は 43736 件であった。返送方法(複数回答)として、依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送が 3 社、個人と依頼人両方に返送が 3 社、個人にのみ返送が 2 社、依頼人にまとめて返送が 1 社、団体によって異なるが 1 社であった(図 3)。

郵送検査による HIV スクリーニング検査陽性数は 112 例、判定保留例は 67 例であった。電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数は 36 例、医療機関での受診が確認できた件数は 21 例であった。

#### ① 梅毒スクリーニング検査数と検査陽性数

2021 年の梅毒郵送検査のスクリーニング検査数は 91595 件であった。梅毒検査陽性数は 1237 例であり、陽性率は 1.35%だった。

#### ② 新型コロナウイルス郵送検査の有無

新型コロナウイルス検査を行っている会社は 5 社、行っていない会社は 3 社、回答無しは 2 社であった。新型コロナウイルスの検査数は 106974 件であった。

#### ③ 新型コロナウイルス流行による HIV 郵送検査業務への影響

影響はなかったと回答した会社は 6 社、影響があったと回答した会社は 3 社、回答無しは 1 社であった。

#### ④ 外部精度調査への参加の有無

外部精度調査へ参加希望する会社は 8 社、希望しない会社は 2 社であった。

#### ⑦ HIV 郵送検査の開始年月

郵送検査を開始した時期は、2000 年 5 月、2000 年 8 月、2002 年、2003 年 4 月、2003 年 10 月、2005 年 4 月、2006 年 4 月、2007 年 3 月、2013 年 8 月、2016 年 6 月であった。

#### ⑧ 検査申込方法(複数回答)(図 2)

インターネットでの申込は 10 社すべてで行われていた。電話での申込は 9 社、FAX での申込は 5 社、店頭、診療所での販売は 3 社、郵便での申込は 1 社、定期検査は 2 社で行われていた。

#### ⑨ 検査費用(図 2)

検査費用は 2500~6000 円(税抜)であり、平均検査費用は 4083 円であった(回答 9 社)。

#### ⑩ 検査検体と保存方法、検体が血液の場合の採血器具(図 2)

検査検体は 10 社すべて血液であり、採血はランセットによる指先穿刺であった。検体の保存は濾紙での保存が 7 社、専用容器での保存 3 社であった。専用容器で保存している 3 社のうち、1 社は遠心分離、1 社はフィルターによる血球成分の除去を行っていた。

#### ⑪ 受検者から会社への検体輸送方法(図 2)

受検者から会社への検体輸送は、10 社とも郵便であり、温度設定は、9 社が室温、1 社が冷蔵であった。

#### ⑫ スクリーニング検査の方法と使用キット(図 2)

郵送検査会社で使用されているスクリーニング検査法は CLEIA 法が 4 社、免疫クロマト法が 2 社、PA 法が 2 社、CLIA 法が 1 社であった。

#### ⑬ スクリーニング検査の実施施設

スクリーニング検査は 10 社中 7 社が自社のラボで行っていた。3 社は他の検査機関に検査を依頼していた。

#### ⑭ 検査結果の通知方法と通知までの日数(複数回答)(図 2)

検査結果の通知は、郵便が 9 社(希望者への通知を含む)、専用 web サイト(ID、パスワードあり)が 6 社、e-mail が 4 社であった。結果通知までの日数は、検体受領後 1~5 日であり、平均 3 日であった。

#### ⑮ スクリーニング検査陽性時の対応(複数回答)

スクリーニング検査結果が陽性だった場合、10 社すべて病院で確認検査を受けるか、もしくは提携している医療機関に行く様に勧めていた。

対応の内訳は、病院で確認検査を受けるように勧めているのが 8 社、提携している医療機関に行くように勧めているのが 6 社、自社で設けた専用の相談連絡先を知らせているのが 2 社、HIV に関する相談窓口を紹介しているのが 2 社、

追加検査・確認検査を実施しているのが2社、保健所で確認検査を受けるように勧めているのが1社、確認検査の必要性を伝えエイズ予防財団のカウンセリングを受けるよう勧めているのが1社、自社診療所へ来院を促しているのが1社であった。

⑯ 2020年以前の年間検査数とスクリーニング検査陽性数（図1）

HIV 郵送検査全体の検査数と陽性数を図1に示した。検査数は2001年から2019年まで2012年を除き毎年増加していたが、2020年に減少していた。陽性数は2001年から2006年まで増加し、2013年までは200件前後でほぼ横ばいであったが、2014年から100件前後で推移していた。

⑰ 他に取り扱いしているSTD検査の種類（複数回答）

郵送検査で他に取り扱いしている検査を調査した結果、HBV、HCV、クラミジア、淋病は9社が取り扱っており、梅毒は8社、ヒトパピローマウイルスとトリコモナスは4社、ヘルペスウイルスとカンジダとマイコプラズマとウレプラズマは2社、成人T細胞白血病と細菌性膣炎は1社が取り扱っていた。

⑱ 郵送検査を行うための届出、申請等

検査に関して、9社が登録衛生検査所申請を行っていた。キット製造に関して、1社が組み合わせ医療機器に関わる製造販売の申請を行っており、1社が医療機器申請を行っていた。販売に関して、3社が高度管理医療機器販売業の申請を行っていた。

## 2. 検査精度調査

郵送検査会社6社に対し、陽性3検体、陰性2検体を郵送し、報告された検査結果を図4に示した。自施設で行った検査結果および抗体価は上段に示した。郵送検査会社5社について、陽性3検体はすべて陽性、陰性2検体はすべて陰性で結果が一致していたが、残り1社について、陽性3検体は陽性が2例、陰性が1例、陰性2検体は陽性が1例、陰性が1例という結果であった。

## D. 考察

2021年における郵送検査会社全体の年間検査数は104298件であった。昨年の郵送検査の検査数と比較すると0.8%減少しており、ほぼ横ばいであった。また郵送検査数の内、42%が団体受付による検査と推定され、郵送検査の中で大きな割合を占めていることがわかった。個人が行う検査の推定数と団体受付の検査の推定数について、それぞれ昨年からの検査数増減率を比較すると、個人検査が3%の減少に対し、団体検査が0.5%の増加とほぼ横ばいであり、昨年に引き続き新型コロナウイルスが流行したため、団体検査の検査数もその影響を大きく受けたままであることが考えられた。

2021年における郵送検査会社全体の検査陽性数は112例であり、昨年と比較して37%増加していたが、判定保留数は67例であり、昨年と比較して32%減少していた。判定保留はすべての郵送検査会社で陽性と同様に医療機関での再検査を勧められており、陽性数と判定保留数を併せた数は179例、昨年の181例と比較して1.1%減少とほぼ横ばいであった。

梅毒郵送検査数は、2020年から2021年にかけて0.9%減少したが、陽性数は62%、陽性率は0.52%増加していた。梅毒郵送検査数の減少は、HIV 郵送検査と同様に昨年に引き続き流行した新型コロナウイルスの影響を大きく受けたと考えられる。今年は陽性数と陽性率が大きく増加しており、この梅毒郵送検査の年間検査数と陽性数についてはさらに継続調査が必要である。

新型コロナウイルスの郵送検査については、HIV 郵送検査会社10社の内、5社が検査を取り扱っており、昨年の3社から5社に増えたことから新型コロナウイルスの郵送検査の需要の増加が示された。

HIV 検査を取り扱う郵送検査は、主にインターネットによって検査申込が行われ、検査費用は平均4083円、検査日数は平均3日であった。検査検体は全ての会社で血液が用いられており、郵送されてきたキットに添付されているランセ

ットで採血し、濾紙や採血管で保存する形式をとっていた。郵送検査会社で行われる検査は、返答があったすべての会社で、PA法、イムノクロマト法、EIA法等、PMDAで販売認可を受けた臨床検査キットが用いられていた。

検査結果の通知方法は郵送が中心であったが、web専用サイトやPC・携帯でのe-mailで通知している会社も多く見られた。スクリーニング検査結果が陽性だった場合、すべての検査会社で医療機関での検査をすすめていた。2021年に陽性となった112例の内、電話やメール相談で受検者を医療機関へ紹介した件数は36例、32%であり、医療機関での受診が確認できた件数は21例、19%であった。郵送検査は匿名であるため、受検者が医療機関へ受診したかの確認は難しく、検査後フォローアップの重要性が示された(図4)。

今回検査精度調査を行った郵送検査会社6社のうち、5社で陽性、陰性検体ともすべて結果が一致していたが、1社で陽性検体の1例と陰性検体の1例の結果が一致しなかった。一致しなかった郵送検査会社と協力して原因を解明し、また今後定期的に検査精度調査を行うことにより、郵送検査の検査精度を維持し向上する必要がある。

郵送検査は、受検者の都合の良い時間と場所で対面することなく検査を受けることができる利点がある一方、郵送やWebサイトを用いた検査の特性上、受検者への検査説明、検査相談、検査後フォローアップ等が対面で行われないため、HIV検査に関する十分な情報が伝えにくいという欠点がある。また、濾紙血を用いた場合の検査精度に関するデータが乏しく、団体受付において検査結果が本人以外の検査依頼者に返されているという問題点もある。

2018年1月、「後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針(エイズ予防指針)」が改

正され、郵送検査に関して「郵送検査の結果、更なる検査が必要とされた者を医療機関等への受診に確実につなげる方法等について検討する必要がある。」と記載された。今後、今年度行ったような定期的な外部精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、2017年に発行された「HIV郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

## E.結論

郵送検査会社全体のHIV年間検査数は毎年増加していたが、新型コロナウイルスが流行しはじめた2020年を機に減少し、2021年は104928件、昨年と比較して0.8%減少と横ばいであった。また郵送検査の内、42%が団体受付による検査と推定された。陽性数と判定保留数を併せた数は179例であり、昨年と比較して0.8%減少と横ばいであった。HIV検査の受検費用は平均4083円、検査日数は平均3日であった。検査検体は全血を濾紙や採血管で保存したものをを用いており、PMDAで認可された臨床検査キットで検査を行っていた。検査結果は郵送での通知に加えて専用webサイトE-mailでの通知が選択できる会社が多く、検査結果が陽性だった場合、すべての検査会社で病院での検査をすすめていた。

今後、定期的な検査精度調査を行い、団体検査、受検者に対する検査相談、フォローアップ等の改善のため、2017年に発行された「HIV郵送検査のあり方について」等を活用し、各郵送検査会社の協力を得て、郵送検査をより安心して受けられ、信頼できる検査とする必要がある。

資料 1

## HIV 郵送検査に関するアンケート(2021)

厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策政策研究事業

「HIV 検査体制の改善と効果的な受検勧奨のための研究」(研究代表者: 今村 顕史)

このアンケートは、HIV 郵送検査の実態を調査させていただくために、インターネットで検索可能であった HIV 郵送検査を取り扱っている会社様宛にお送りさせていただいております。本アンケート調査の集計結果は、個々の会社名を記号化して使用いたします。(アンケートの集計結果は、会社名を記号化して、研究班の報告書や学会等で報告することがあります。)また、本年度も新型コロナウイルス感染流行が HIV 検査に及ぼした影響についても調査させていただきたく、設問させていただきました。答えにくい質問は空欄でも結構です。より良い HIV 検査体制の充実のために、ご協力をよろしくお願いいたします。

以下のアンケート項目にお答えください。誠に申し訳ありませんが、2月15日(火)までにご返信いただけます様、よろしくお願い申し上げます。

貴社名 \_\_\_\_\_ 部署名 \_\_\_\_\_  
担当者名 \_\_\_\_\_ 様 e-mail \_\_\_\_\_  
住所連絡先変更 1. なし ・ 2. あり (ありの場合は以下に記入をお願いします)  
貴社住所 \_\_\_\_\_  
連絡先 Tel \_\_\_\_\_ FAX \_\_\_\_\_

以下の設問でお伺いした検査数と陽性数は、個別の会社の数として公表することはなく、全郵送検査会社の合計数としてのみご報告させていただきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

① 昨年(2021年1-12月)の HIV スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. HIV 検査数 \_\_\_\_\_ 件

団体での定期健診検査受付: 1. あり ・ 2. なし ・ 3. 不明

→ ありの場合: およそ \_\_\_\_\_ %

団体検査受付時の結果の返送方法 (複数回答可):

A. 個人にのみ返送 ・ B. 個人と依頼人両方に返送 ・ C. 依頼人にまとめて返送

D. 依頼人に個人ごとの封書をまとめて返送 ・ E. その他 \_\_\_\_\_

2. HIV 検査陽性数 \_\_\_\_\_ 件

(検査結果として陽性以外に判定保留がある場合、その件数 \_\_\_\_\_ 件)

(確認検査を実施している場合は確認検査陽性数 \_\_\_\_\_ 件)

(電話やメールによる相談で、受検者を医療機関へ紹介した件数 \_\_\_\_\_ 件)

(受検者が医療機関へ受診したことが確認できた件数 \_\_\_\_\_ 件)

② 梅毒の検査を行っている場合は、昨年の(2021年1-12月)の梅毒スクリーニング検査数とその検査陽性数を教えてください。

1. 梅毒検査数 \_\_\_\_\_ 件 2. 梅毒検査陽性数 \_\_\_\_\_ 件

③ 新型コロナウイルス郵送検査を行っていますか。

1. 行っている (おおよそ \_\_\_\_\_ 件) 2. 行っていない

④ 新型コロナウイルス流行により、HIV 郵送検査業務に影響がありましたか。

1. 影響はなかった 2. 影響があった ( \_\_\_\_\_ )

⑤ HIV 郵送検査の精度向上のため、昨年に継続して外部精度調査を行う予定です (検体数は 5 件です)。ご参加いただける場合は、後程詳細な方法と日程についてご連絡いたします。

1. 参加を希望する。 2. 参加を希望しない。

⑥ HIV 郵送検査に関連して今後の課題・展望等ございましたら、御意見をお聞かせください。

(必要があれば適宜別紙を追加し御記載ください)

\*\*\*\*\*

昨年アンケートでお答えをいただいております、昨年と回答が変わらない設問については変更無しに○を、昨年と回答が変わった設問についてはご回答をお願いします。

- ⑦ HIV 郵送検査の開始年月を教えてください。  
 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 より開始 ・ 変更なし
- ⑧ HIV 検査の申し込み方法を教えてください。(複数回答可)  
 1. インターネット ・ 2. 電話 ・ 3. FAX ・ 4. 郵便 ・ 5. 定期健診 ・ 6. 店頭(店名 \_\_\_\_\_ )  
 7. その他( \_\_\_\_\_ ) ・ 変更なし
- ⑨ HIV 郵送検査の費用を教えてください。  
 \_\_\_\_\_ 円(税込 \_\_\_\_\_ 円) ・ 変更なし
- ⑩ HIV 郵送検査に用いる検体とその保存方法を教えてください。また検体が血液の場合、採血部位と使用器具について、併せて教えてください。  
 <検査検体> 1. 血液 ・ 2. 唾液 ・ 3. 尿 ・ 4. その他( \_\_\_\_\_ ) ・ 変更なし  
 <保存方法> 1. 専用容器(抗凝固剤・血清分離剤) ・ 2. ろ紙 ・ 3. その他( \_\_\_\_\_ )  
 →検体が血液の場合  
 <採血部位> 1. 指先穿刺 ・ 2. 耳朶採血 ・ 3. その他( \_\_\_\_\_ )  
 <使用器具> 1. ランセット ・ 2. その他( \_\_\_\_\_ )
- ⑪ 受検者から貴社への検体輸送方法について教えてください。  
 <検体輸送方法> 1. 郵便(宅急便) ・ 2. その他( \_\_\_\_\_ ) ・ 変更なし  
 <設定温度> 1. 室温 ・ 2. 冷蔵 \_\_\_\_\_℃ ・ 3. 凍結 \_\_\_\_\_℃
- ⑫ HIV スクリーニング検査の方法と使用キット名を教えてください。  
 1. PA 法 ・ 2. EIA 法 ・ 3. イムノクロマト法 ・ 4. その他( \_\_\_\_\_ ) ・ 変更なし  
 キット名 \_\_\_\_\_
- ⑬ HIV スクリーニング検査をどのように実施していますか。  
 1. 自社内ラボ ・ 2. 他の検査機関(機関名 \_\_\_\_\_) ・ 変更なし
- ⑭ HIV スクリーニング検査結果の通知方法(複数回答可)と通知までの日数を教えてください。  
 1. e-mail(携帯・PC) ・ 2. 郵送 ・ 3. その他( \_\_\_\_\_ ) ・ 変更なし  
 検体受領後 \_\_\_\_\_ 日で結果を通知
- ⑮ HIV スクリーニング検査陽性の場合の対応方法を教えてください(複数回答可)。  
 1. 保健所で確認検査を受けるように勧める。 ・ 変更なし  
 2. 病院で確認検査を受けるように勧める。  
 3. 提携している医療機関に行くように勧める。(提携医療機関 \_\_\_\_\_)  
 4. 自社で設けた専用の相談連絡先を知らせる。(電話 ・ メール)  
 5. HIV に関する相談窓口を紹介する。(エイズ予防財団・NPO・その他 \_\_\_\_\_)  
 6. 追加検査、確認検査を実施している。(方法 \_\_\_\_\_)(キット名 \_\_\_\_\_)  
 →受検者への結果通知に反映させている。(はい ・ いいえ)  
 7. スクリーニング検査の結果のみ知らせ、対応は個人の判断に任せる。  
 8. その他( \_\_\_\_\_ )
- ⑯ 昨年より前の HIV 検査取り扱い数と HIV スクリーニング検査陽性数を教えてください。  
 ・ 変更なし

	~2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
年間検査数																				
検査陽性数																				

- ⑰ 他に取っている STD 検査の種類を教えてください(複数回答可)。  
 1. B型肝炎 ・ 2. C型肝炎 ・ 3. 梅毒 ・ 4. クラミジア ・ 5. 淋病 ・ 変更なし  
 6. その他( \_\_\_\_\_ )
- ⑱ 郵送検査を行うにあたって、国、都道府県等の届出、申請等、どのような手続きを行いましたか。  
 ・ 変更なし

御協力ありがとうございました。

図1

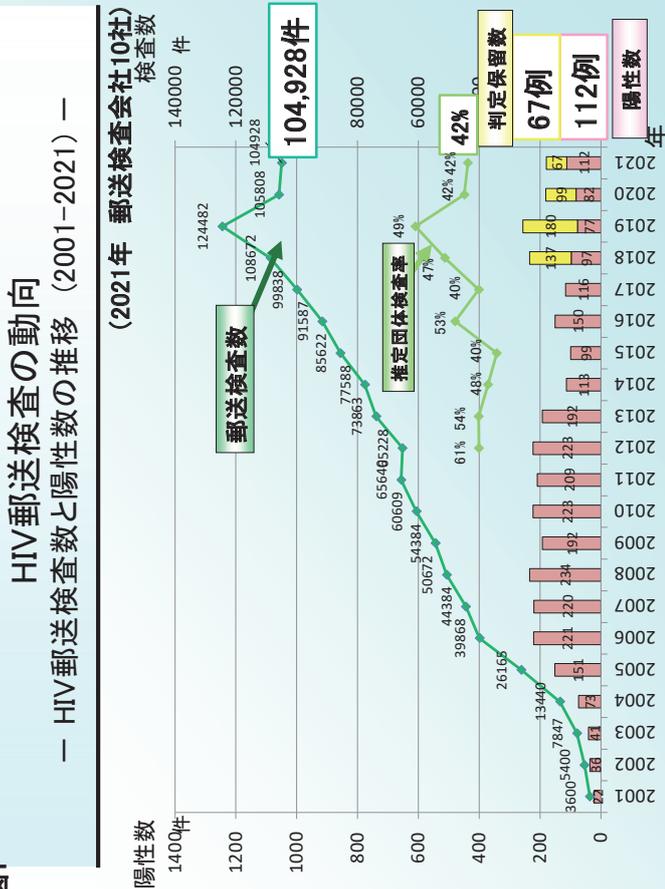


図3

### フォローアップと医療機関への繋がりが

(2021年 郵送検査会社10社)

郵送検査 スクリーニング検査陽性数 112件

→ 電話やメールによる相談で 36例

受検者を医療機関へ紹介した件数 21例

→ 医療機関での受診が確認できた件数

団体検査あり

返送方法(複数回答)

- 依頼者に受検者ごとの封書をまとめて返送 5社
- 受検者と依頼者両方に返送 3社
- 個人にのみ返送 3社
- 依頼者にまとめて返送 2社
- 団体によって異なる 1社

→ 団体検査での結果返しは個人ではなく依頼人に結果を返していた。

図2

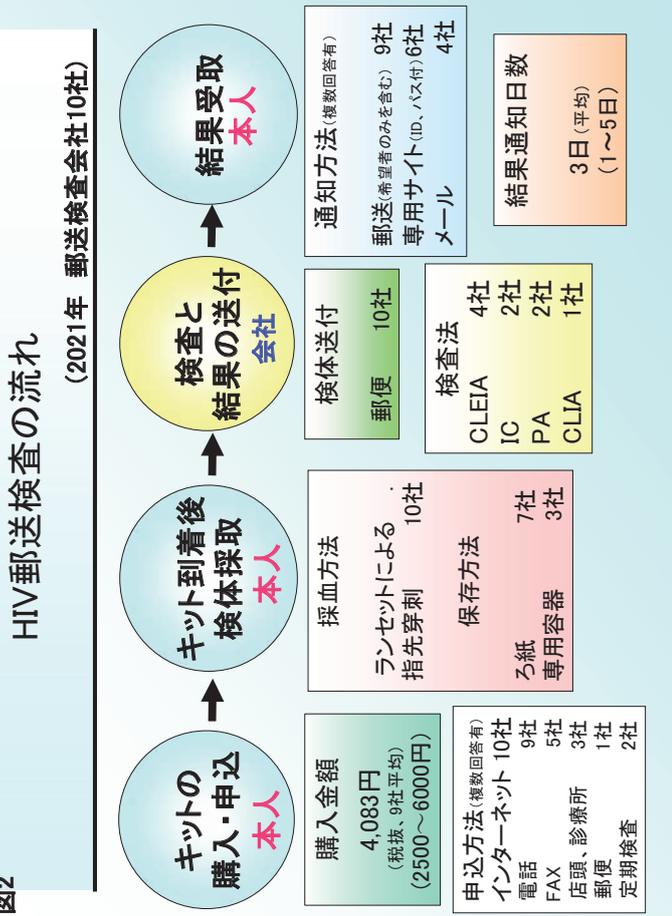


図4

### 検査精度調査結果

使用検体: 陽性3検体、陰性2検体、合計5検体

対象: 郵送検査会社6施設(各自施設)

施設名	検査結果				
	陽性検体 (+)	陽性検体 (+)	陽性検体 (+)	陰性検体 (-)	陰性検体 (-)
自施設 (PA抗体価)	+	+	+	-	-
A社	+	+	+	-	-
B社	+	+	+	-	-
C社	-	+	+	+	-
D社	+	+	+	-	-
E社	+	+	+	-	-
F社	+	+	+	-	-

郵送検査会社5社について、陽性3検体はすべて陽性、陰性2検体はすべて陰性で結果が一致していた。

郵送検査会社1社について、陽性3検体は陰性が2例、陰性が1例、陰性2検体は陽性が1例、陰性が1例という結果であった。